

市民の皆さんと市長の懇談会（松葉）
～将来のまちづくりについて～

日時	平成 28 年 6 月 12 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分	
場所	松葉コミュニティセンター	
出席者	市民	27 人
	市	中山市長 松尾総合政策部長 岡田都市環境部長 企画課：宮川課長，大貫課長補佐，関ヶ原主査，染谷主幹 都市計画課：清宮課長，岡野課長補佐，廣津係長，沼崎係長
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆さんと市長との懇談会～将来のまちづくりについて～ 次第 ・（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について ・新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について ・常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について ・アンケート用紙 	

【懇談会内容】

1. 開会

司会より開会のあいさつ，

2. 市からの説明

(1) 懇談会の開催趣旨について

市より開催趣旨についての説明。

(2) （仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について

(3) 新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について

(4) 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について

市より検討状況について，スライドを用いて説明。

3. 市長挨拶

4. 意見交換

- ・（市民）計画の中に「若者」という言葉が多数出ているが，今回，若者を呼ぶための工夫や目標人数などを考えたのか。
 - （市長）5 会場目であるがこの会場で初めて若い人が来てくれた。会場によっては，人数が少なくさみしい場面もあった。広報の努力が足りないという指摘も受けている。7 月に開かれる選挙では 18 歳から投票できるため若者に対する伝え方は今後とも検討が必要である。フェイスブックやHPでの発信に取り組んでいるが，日頃から関心を高く持ってもらえるように改善していきたい。今後は龍ヶ崎市のアプリを開発する予定である。
- ・（市民）「（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の前提として，第 1 次の見直しや反省などの精査は行ったのか。また，人口減少防止戦略がメインテーマであるが，龍ヶ崎市における人口動態の地域別や要因別の傾向は分かっているのか。どのような年齢層の出入りがあるのか等，基本データがどこまで精査されているのか。

- (市長) 現行の第1次の精査は、進行管理と評価を随時行なっている。重点目標4つのうち、「子育て環境日本一」と「市民活動日本一」の2つは、現行のプランとして挙げられているものと同じである。こちらは引き続き旗印として残している。「防災・減災日本一」は、東日本大震災の教訓から犠牲者を出さないための取組が必要であると考えている。「スポーツ健幸日本一」は、長寿社会の背景から今後の龍ヶ崎市にとって大変重要なものであると考えている。
 - (松尾部長) 人口動態については、男女別、年齢別、転出先・転入元は把握している。転出届を出した方に、転出理由を伺うアンケートを行っており、進学、就職、結婚が転出の大きな理由となっている。
 - (大貫課長補佐) 地区別の人口動態の分析も行っている。どの地区もおおむね同じラインになるとされているが、龍ヶ岡地区については、若干人口が伸びた後減少する傾向がある。龍ヶ崎地区では、減少のカーブがきつくなる傾向がある。詳細は、HP等でも公表しており、冊子も各コミュニティセンターに置いている。
- ・ (市民) 「(仮称) 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」では財務的な検討を行っているのか。成長戦略なしに人口の増はありえない。成長戦略について、1項目作っていただきたい。
- ・ (市民) 「子育て環境日本一」は良いことだが、何を持って日本一なのか疑問である。情緒的表現にとどまっており、数値化することが必要ではないか。数値化することで、問題点が明確になり中身がより濃いものとなる。
- ・ (市民) 都市計画マスタープランのほか、公共施設、公共交通などに関する各種計画との整合をどのように行うのか。
 - (市長) 財務の裏付けについては、「重点戦略5 持続可能な行財政運営 将来につながる基盤づくり」に示してあるが、説明が少ない。成長戦略については、御指摘いただいた内容について、計画内でどのような書き振りができるか検討したい。馴染地区はポテンシャルが高く、どのように市に波及させていくかが重要である。駅に近いという状況を活かして空き家の利活用などを進めていきたい。
 - (市長) 「市民活動日本一」では、龍ヶ崎市は本当に秀でたものを持っている。それぞれ個性的な地域づくりが取り組まれており、数値化は難しいが考えていきたい。一方、他都市と数値だけの競争になると、財政力が強い地域に勝てなくなる。一番いいのは総合力で評価することであると考えている。
 - (市長) 都市計画マスタープランとは策定期間がずれていると齟齬が出てしまうということで、策定年度を合わせた。各計画の集約を図るとともに、整合性のあるものとしていきたい。
 - (松尾部長) 戦略プランでは大きな考え方を示しており、それらを具体化するためのアクションプランにおいて、財務について示していくことを考えている。
 - (松尾部長) 「子育て環境日本一」をどのように数値で示せるかを検討している。例えば、待機児童は市では発生させていない。学童保育は、平成25年から6年生ま

でとし、希望者全員を受け入れている。数値比較から日本一とは言い切れないが、トップクラスであると自負している。しかし、裏付けは必要である。今後は、潜在機児童までを含めた対策を数値化できればと考えている。

- (松尾部長)「スポーツ健幸日本一」については、介護認定を受けずに、健康を維持する視点で日本一を目指せないかと考えている。施設レベルに関してはK P Iを設定している。
 - (松尾部長) 公共施設の管理計画に関しては、公共施設の縮充と、効率的な運営等、計画に分散して盛り込んではいるが、見えにくい状況ではある。
- ・ (市民) 公共路線がないエリアで公共施設の縮充を行うと、移動手段がなくなる課題がある。また、関東鉄道のバスの維持活動に、行政としてどこまで対応するのか。
 - ・ 補助制度などによる移住政策について、つくばエクスプレス沿線等に勝るような施策はないか。
 - (市長) 転入者への補助制度は龍ヶ崎市でも取り組んでいる。今後は、空き家を若い世代に供給できるように検討を行う。
 - (市長) 公共施設の縮充については、現在、給食センターの統合や、保健センターと総合福祉センターなどが分散しているものを1か所に統合する計画などがある。
 - (市長) 公共交通の問題については、コミュニティバスや、デマンドタクシーを利用する方法もある。デマンドタクシーは、ショッピングセンターサプラに窓口ステーションを設置することに伴い、乗降位置を置くことになった。今後は、買い物客も使えるようになるだろう。デマンドタクシーは、コミュニティバスの通っていない場所の足を補完する形になる。また、広域での公共交通の検討を、県南の7自治体で行うことになった。
 - (松尾部長) 公共施設の再編成の取組は、龍ヶ崎市が先頭を走っている。取組についてのマンガを2話作成し、HPで公開している。公共施設の床面積は減らさなければならぬと考えており、方向としては、複合化や多機能化を考えている。
 - (松尾部長) 移住支援は、40歳未満で新たに家を持つ場合は10万円の補助金、市外から転入し、40歳以下で18歳以下の子供がいれば加算措置もあり、補助金の上限は30万円である。補助金だけで新たに人は来ないと思っているが、検討する際に話の種になればと考えている。他都市では100万円の補助の事例があるが、お金だけで人を集めるようなことは考えていない。
 - ・ (市民) この計画には良いことだけ書いてあり、具体的にどういった施策を作るかが重要であり、龍ヶ崎の特徴を活かすことを期待したい。
 - ・ (市民)「常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想(素案)」では、JR常磐線をオーバーランするように道路計画が描かれているが、財政計画の課題があるのではないかと。市道、国道、県道で行うのかは検討が必要である。
 - ・ (市民) 佐貫駅にビルが建っている絵があるが、具体的に進めていくには、都市計画

マスタープランに基づき、地区計画にのっとって行うべきであり、さらに地権者や地域住民の合意が必要である。また、本当に事業者が来るかという課題もある。

- ・ (市民) 佐貫駅は特急が停まらない。若い人が東京に就職しても特急があれば通勤できるので、取り組むべきである。
 - (市長) 佐貫駅周辺に関しては、地域の皆さんや地権者のみなさんに御理解、御協力いただけるように努力していきたい。
 - (市長) 跨線橋は、JR との兼ね合いもあるため、長期計画になることが予想される。また、財源が限られているため、できれば県道として認定していただくことが望ましい。
 - (市長) 常磐線の特急乗り入れに関しては、従来から毎年 JR 東日本には、要望活動を行っている。4月から上野東京ラインが開通したが、朝夕の時間帯に乗り入れがない。一本ずつ増やせるように、今後も要望を続けていく。

- ・ (市民) 駅名改称の時期はいつになったのか。
 - (市長) 消費増税のタイミングが費用負担を抑制できる。しかし、増税が延期になったため、現在は、JR と協議している段階である。

- ・ (市民) 駅の名称について、市長が「龍ヶ崎佐貫駅が良い」と言っていたのを覚えているが、佐貫駅の新名称は「龍ヶ崎市」で決定なのか。
 - (市長) 当時は「龍ヶ崎佐貫」という折衷案もあるという意味でお話した。駅名については、JR の基準もあり、シンプルであることが望ましい。龍ヶ崎市としては自治体名を入れることが大事であると考え、現段階では「龍ヶ崎市駅」で調整を行っている。駅名に「市」が入っている駅は、東日本では少ないが、関西では JR 出雲市駅など事例が多い。来訪者が「市民の駅」と認識していただき、龍ヶ崎市として一体感を持つことが大事と考えている。自治体名を駅名につけることが大事であることを理解いただきたい。

- ・ (市民) 駅名に自治体名が入ることが決定であれば、龍ヶ崎市という市名がなくなった場合どうするのか。

- ・ (市民) 「(仮称) 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」人口移動率の目標の中で、若い世代の転入率を増やすとあるが、具体的な方法は何か。合計特殊出生率の目標では、国も同じ数字を出しているが、具体的な方策はあるのか。
 - (市長) 藤代町は取手市と合併したが、藤代駅がシンボルとして残っている事例もある。自治体の広域化については、将来的なテーマであると認識している。龍ヶ崎の名を発信することは、人を呼び込むためにも必要なことと考えている。
 - (市長) 人口移動については、子育て施策等様々な形で進めている。6月27日からスタートする「駅前こどもステーション」を認知してもらうことで、龍ヶ崎市に引っ越すきっかけになるよう、PRしていくことも大切である。

- （市長）合計特殊出生率の増加は、難しい問題である。自治体は国と協力して進めていくべきであり、子育ての雰囲気、環境づくりは積極的に取り組む必要がある。